



供養の碑で行われた供養のようす



多くの参加者で供養盆踊りが盛大に行われました

国見町

僧清虚の遺徳を偲んで盛大に盆踊り大会

8月21日(火)午後5時から、国見町権現崎にある僧清虚(1777~1850)の石像の前で、国見町僧清虚顕彰会(中田博之会長)の主催による供養祭が盛大に行われました。

この日の供養祭には、同・門司顕彰会からも、永木睦文会長ほか大勢の会員の皆さんが参列し、読経の後、出席者全員が焼香をして僧清虚の遺徳を偲びました。

この後、国見保健福祉センターに会場を移して、野田侃生市長、北九州市観光協会の皆さんなどが参加して交流会が行われました。午後8時から、同センター駐車場で多くの市民の皆さんが参加して、盛大に供養盆踊り大会が行われにぎわいました。

僧清虚は、縁あって1833年から17年間、一日も休むことなく門司の海の難所で毎夜海上安全と通峡船目標のために火焚を行いました。門司上白野江地区(清福寺)を中心に、小倉藩の時代からこの遺徳は語り継がれることとなり、現在に至るまで毎年、清虚祭りとして盆踊りをしてその像を仰いでいます。(「国見物語」第1巻)



豊崎公民館に完成した第7分団旗の額

国東町

第7分団旗の保存額が完成

国東町消防団第7分団旗額完成式並びに祝賀会が、7月29日(日)午後6時から、豊崎地区公民館で開催されました。

同地区では、合併に伴う消防団組織再編で役目を終えた分団旗を後世まで残そうと保存会を結成し、豊崎地区公民館に保存用の額を設置。この日は、地元区長や同地区の消防団員(現役・OB)、消防署員約70名が参加し、額の完成を祝いました。

第7分団旗保存会の永松寿会長(元国東町消防団長)の話。「消防団のシンボルである分団旗をこれからもずっと大切に守っていききたいと思います。」

全長178メートル、全幅25.8メートル、基準排水量8900トンの輸送艦くにさき



艦内見学会のようす

輸送艦くにさき

8月26日(日)・27日(月)の2日間、海上自衛隊の輸送艦くにさきが国東市に寄航しました。今回の寄航は、平成16年11月以来2回目となります。

26日には、輸送艦くにさきのファンクラブ「WE LOVE くにさきクラブ」(竹永八幡郎代表)主催の歓迎レセプションが行われました。また、27日には、市内外から約160名が参加して「くにさき」の艦内見学会が開催されました。